

3月20日 受難の主日（枝の主日）

王を迎える

ルカによる福音書 19章 28～40節

²⁸ イエスはこのように話してから、先に立って進み、エルサレムに上って行かれた。²⁹ そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を遣いに出そうとして、³⁰ 言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、引いて来なさい。³¹ もし、だれかが、『なぜほどこくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」³² 遣いに出された者たちが出かけると、言われたとおりであった。³³ ろばの子をほどこいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどこくのか」と言った。³⁴ 二人は、「主がお入り用なのです」と言った。³⁵ そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。³⁶ イエスが進んで行かれると、人々は自分の服を道に敷いた。

³⁷ イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかれたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。

³⁸ 「主の名によって来られる方、王に、

祝福があるように。

天には平和、

いと高きところには栄光。」

³⁹ すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。⁴⁰ イエスはお答えになった。「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」

他の朗読：イザヤ 50:4～7 詩編 24、47編 フィリピ 2:6～11

Lectio…読む

聖週間はイエスの華々しいエルサレム入城で始まります。シンボリックなイメージと意味が詰まった、何という出来事だったことでしょうか。

イエスの出発点、すなわち「オリーブ畑」と呼ばれる山は、聖書では主の来訪と結びつけられる重要なところ（ゼカリヤ 14章 4節）。

ルカは、イエスが乗る子ろばを準備する注目すべき場面の描写から始めています。弟子たちはすべて「イエスが言った通り（32節）」を見いだします。マタイはこれをゼカリヤの預言（ゼカリヤ 9章 9、10節）の成就として理解していますが、ルカは特に言及することなく、ただこれらの詳細を私たちに伝えてくれているだけです。ゼカリヤは、王は馬や戦車ではなく、子ろばに乗って救い主としてやって来ると宣言しています。イエスは冷静で、地上での最後の数日間は何をもたらずのか、完全に承知しています。

人々はイエスの行く道に自分の服を敷きました。これは勝利した王、または重要な人に対する習慣的な挨拶です（列王記下 9章 13節）。彼らは「主の名によって来られる方、王（38節）」を賛美し、イエスの誕生時における天使たちの言葉をひびかせます（ルカ 2章 13、14節）。

これは、ファリサイ派の人々にとっては一番望ましくない出来事でした。彼らはイエスやその教えを受け入れておらず、人々がイエスに従うのを阻止しようとしていました。このやかましい英雄の歓迎は、何よりも最悪だったのです。彼らはまた、ローマ人の兵士たちの介入を恐れていたため、静かにするよう人々に言いつけて欲しい、とイエスに頼みます。

しかしイエスの答え（40節）は、人々の賛美は正しく妥当であるということを指摘するものでした。事実、状況もそれを要求していました。もし人々がこの要求に応えないなら、神がエルサレムの石に賛美を叫ばせたことでしょう。

イエスの劇的な入城は、ファリサイ派の人々が一番起こって欲しくないと思っていた時に起こりました。エルサレムは過越祭を祝うために来ていた巡礼者たちで一杯でした（ルカ 22 章 7 節）。マタイは、「イエスがエルサレムに入られると、都中の者が、『いったい、これはどういう人だ』と言って騒いだ」（マタイ 21 章 10 節）と私たちに伝えてくれています。

Meditatio…黙想する

この群衆に加わったつもりになって、これらの出来事がどんなものであったかを想像してみましょう。マタイ 21 章 1～11 節、マルコ 11 章 1～11 節、及びヨハネ 12 章 12～19 節など他の福音書の記述も読みあなたの理解を深めましょう。

イエスが乗っている小さな子ろばと、英雄の歓迎との間の対比をよく考えてみましょう。このことはあなたに何を語っているのでしょうか。

イエスが彼の宣教の中で行っていた奇跡と「偉大なこと」をいくつか思い出してみましょう。

弟子たちが子ろばに関するイエスの指示に従ったのは素晴らしいことでした。ここから私たちは、何を学ぶことができるのでしょうか。神がなぜあなたに何かをするように頼んだのか、完全には理解できない時にでも、あなたは神に従う意思がありますか。

Oratio…祈る

イエスへの感謝をささげるあなた自身の詩編を書いてみましょう。あるいは、単純に私たちのすばらしい救い主のために神へのあなたの賛美を口に出してみましょう。今日の詩編に取りかかる助けとなるでしょう。

Contemplatio…観想する

フィリピ 2 章 6～11 節の中で、非常に雄弁に表されたイエスの謙虚さを、畏敬の念をもって心にとどめてみましょう。そして「イエス・キリストは主、父である神をたたえます」と言ってイエスを賛美しましょう。